厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
総括研究報告書 2 R6 年度
ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究
「ICD-11 に対応した新疾病分類の作成」

研究代表者 林玲子 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

ICD-11 基本分類を用い、WHO の ICD-11 疾病製表用リスト(Morbidity Tabulation List、2023 年版)、2020 年患者調査の疾病中分類、疾病小分類、基本分類別総患者数を参照しながら、疾病中分類と整合的かつ ICD-11 に対応した新疾病分類を作成した。疾病中分類は 148 分類のところ、新分類案の項目数は 151 と、増加を 3 におさえたものとなった。

A. 研究目的

昨年度、ICD-11 に対応した死因簡単分類案を作成し、疾病分類については小分類をベースに検討した結果、新たな案の作成は困難としたが、今年度は ICD-10 に対応した疾病中分類をベースに ICD-11 に対応した疾病分類を作成することを目的とした。

B. 研究方法

2024 年 7 月に疾病、傷害及び死因分類専門委員会において取りまとめられた ICD-11 基本分類を用い、疾病分類について、WHO の ICD-11 疾病製表用リスト(Morbidity Tabulation List、2023 年版)、2020 年患者調査の疾病中分類、疾病小分類、基本分類別総患者数を参照しつつ、疾病中分類と整合的かつ ICD-11 に対応した疾病分類案(以下「新疾病分類」とする)を以下の方針にて作成した。

- ✓ 疾病中分類の項目数(148)と同程度の項目数となるよう、新疾病分類を加除する。
- ✓ 疾病小分類、基本分類で総患者数がおおむね 50 万人以上であり、疾病中分類に含まれていない傷病を追加する。
- ✓ 疾病中分類で総患者数が 1 万人にみえない傷病は削除する。
- ✓ 新疾病分類に含まれる基本分類は、WHO の ICD-11 疾病製表用リストに掲載されている

MMS (Mortality and Morbidity Statistics=基本分類)を用いる。

- ✓ 新疾病分類の名称は、ICD-11 基本分類の和訳を用いる。
- ✓ ICD-11 の章は必ず一つ以上の新疾病分類とし、新疾病分類を構成する基本分類は章をまたがない。

C. 研究成果

作成した新疾病分類を、項目別の変更理由と共に表 1 に示した。

新分類案の項目数は 151 と、疾病中分類よりも 3 のみ増える程度に抑えることができた。

D. 考察

疾病中分類は、患者調査のみならず、社会医療診療行為別統計、自治体の疾病別医療費統計などに用いられている分類であり、新疾病分類も同様に用いられることを想定している。分類数はコンパクトに押さえながらも重要な傷病の動向が可視化されるよう適切に選択する必要がある。「B.方法」に示した方針で、新疾病分類を検討したが、その結果、以下の様な点を指摘できる。

- ✓ 総患者数が多いために新たに追加した分類は、不眠障害群、レヴィ小体病、緑内障又は緑内障疑い、不整脈、心不全、胃食道逆

流症である。それぞれ、ICD-10 適用の1995年からの30年間で、診断・治療が進んだ疾病であるといえる。

- ✓ 心不全は重要な心疾患であるにもかかわらず、これまでの疾病中分類に含まれていなかったのは、1995年のICD-10の適用時に心不全は不適切な死因と捉えられたこと(大津2018)が関係していると思われる。すでに本研究においてその補正が完了したところである(大津分担研究報告書参照)。また、ICD-11では心不全の分類が細分化され、臨床現場との整合性が改善した(橋本分担研究報告書参照)。このようなことから新疾病分類で心不全の分類を新設するのは適切であると考えられる。
- ✓ 総患者数が多い分類の追加、ICD-11で章が新設されたことによる追加で、増えた分類だけ、既存の分類を削除する必要がある。そのうち、総患者数が少ないため削除したのは、感染症及び寄生虫症の続発・後遺症、脳動脈硬化(症)、急性又は慢性と明示されない気管支炎であり、前者は「その他の感染症又は寄生虫」に一本化、後者の二つはWHOによる疾病製表用分類には独立した項目がない。「その他の」分類をまとめることにより削除したのは、感染症、耳又は乳様突起の疾患における「その他の～」で、複数の「その他の～」をそれぞれ一本化した。
- ✓ 傷病の定義や分類軸が変わることで変更した分類は、血液がん(悪性リンパ腫/白血病からリンパ系新生物/骨髄系新生物へ、総括報告書3参照)、精神、行動又は神経発達の疾患群の分類である。
- ✓ 急性上気道炎、痔、低骨量障害は、それぞれ類似の分類を整理した。
- ✓ 「腰痛症及び坐骨神経痛」は総患者数も43.5万人と多いが、ICD-10では「筋骨格系及び結合組織の疾患」の中に位置づけられていたところ、ICD-11では21章の「症状、徴候又は臨床所見、他に分類されない

もの」の中の腰痛と坐骨神経痛に位置づけられた。同様に、頸腕症候群も21章の「症状」として取り扱われるようになった。いずれも、診断名とするのは曖昧な症状であるということで21章に入ったのだと考えられるが、数も多い腰痛は21章の一つの分類として残した。症状か傷病かの区別はゆらぎがあり、分類が難しい。

- ✓ 便秘は、ICD-10では疾病小分類の1分類(c-1118)であり、NDBの分析でも主傷病ではないが傷病としてレセプトに記載されることが多く、入院患者では一番多い傷病名となっている(総括報告書5参照)。そのため、一つの分類として取り上げられることを検討したものの、WHOによるICD-10からICD-11の対応表では、ICD-10の便秘(K59.0)は、第21章の症状としての便秘(ME05.0)ではなく、第13章「消化器系の疾患」の「消化器系の疾患、詳細不明」(DE2Z)に対応付けられていること、および、総患者数が45.2万人と基準とした50万人を下回ることから、新疾病分類には含めなかった。傷病か症状か、総患者数といった点からは、便秘は腰痛と同様であるが、WHOによるコード対応表が異なることから分類の設定が異なることとなった。
- ✓ 中毒は、ICD-4や5では一つの章にもなった大きな傷病群であるが(総括報告書4参照)、ICD-11ではそれが細分化されたことにより「中毒」という独立した分類がなくなった。ICD-10の中分類でも数が少なく、疾病分類からも削除となった。

E. 結論

既存の疾病中分類と同等の数で新疾病分類を作成した。ICD-11の章建て、各分類に含まれる基本分類は、WHOの設定に準じている。従って、同じ中分類と新疾病分類であっても、基本分類のレベルでずれが生じることもありうる。現段階では、WHOによるICD-10からICD-11の一対一対応表により分類の変化を把握してい

るが、これとは別に、日本における病名をどの ICD-11 基本分類にするのか、つまり標準病名、レセプト傷病名の ICD-11 コード対応により、ずれを把握することも必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1 新疾病分類 ICD-10 ICD-11 対応表

中分類コード	ICD-10 2013 疾病中分類名	2020年 総患者数 (千人)	no	新疾病分類名	章	WHO ICD-11 Mb code	変更理由等
b-0100	感染症及び寄生虫症	1,801	1	特定の感染症又は寄生虫症	1		
b-0101	腸管感染症	122	2	感染症に起因する胃腸炎又は大腸炎	1	1-9	
b-0103	主として性的伝播様式をとる感染症	45	3	主に性的伝播による感染症	1	10-15	
b-0102	結核	21	4	結核	1	16-18	
b-0105	ウイルス性肝炎	242	5	ウイルス性肝炎	1	45-48	
b-0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	575	6	皮膚又は粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	1	49-53 及び 71*	
b-0106	その他のウイルス性疾患	9±					少数であり「その他の感染症又は寄生虫症」に一本化
b-0107	真菌症	589	7	真菌症	1	56	
b-0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	8					少数であり「その他の感染症又は寄生虫症」に一本化
b-0109	その他の感染症及び寄生虫症	119	8	その他の感染症又は寄生虫症	1	19-44, 57-71*	及び→又は
b-0200	新生物<腫瘍>	4,656	9	新生物	2		
			10	脳又は中枢神経系の新生物	2	72-73	ICD-11 ブロック
b-0208	悪性リンパ腫	129	11	リンパ系新生物	2	75	疾患概念の変化。WHO の製表リストに合わせて「リンパ系新生物」(Mb=75) とする。
b-0209	白血病	59	12	骨髄系新生物	2	74	疾患概念の変化。WHO の製表リストに合わせて「骨髄系新生物」(Mb=74) とする。
			13	その他の造血組織又はリンパ組織の新生物	2	76	疾患概念の変化。WHO の製表リストに合わせて「その他の造血組織又はリンパ組織の新生物」(Mb=76) とする。
b-0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	281	14	胃の悪性新生物	2	80	
b-0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	324	15	結腸の悪性新生物	2	81	
b-0203	直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	164	16	直腸 S 状結腸接合部、直腸、肛門又は肛門管の悪性新生物	2	82	及び→又は
b-0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	89	17	肝臓又は肝内胆管の悪性新生物	2	85	
b-0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	328	18	気管、気管支又は肺の悪性新生物	2	88	及び→又は
b-0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	838	19	乳房の悪性新生物	2	90	
b-0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>	104	20	子宮の悪性新生物	2	94-95	
b-0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	1,343	21	その他の悪性新生物	2	77-79,83-84,86-87,89,91,92,96-104	
b-0211	良性新生物<腫瘍> 及びその他の新生物<腫瘍>	998	22	その他の新生物	2	105-111	

b-0300	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害						ICD-11 章の分割
		346	23	血液又は造血器の疾患	3		ICD-11 新章
b-0301	貧血	212	24	貧血	3	112-113	
			25	その他の血液又は造血器の疾患	3	114-116	随伴挿入、及び→又は、「その他の」の位置移動
b-0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害						
			26	免疫系の疾患	4	117-121	ICD-11 新章
b-0400	内分泌、栄養及び代謝疾患	11,479	27	内分泌、栄養又は代謝疾患	5		
b-0401	甲状腺障害	915	28	甲状腺障害	5	122-124	
b-0402	糖尿病	5,791	29	糖尿病	5	125-126	
b-0403	脂質異常症	4,010	30	脂質異常症	5	134*(5C8,5C52,5C62)	
b-0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	768	31	その他の内分泌、栄養又は代謝疾患	5	127-133,134*	及び→又は
b-0500	精神及び行動の障害	5,025	32	精神、行動又は神経発達 の疾患群	6		
b-0506	知的障害<精神遅滞>	9±					神経発達症群に含まれる
			33	神経発達症群	6	135-138	
b-0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	880	34	統合失調症又はその他の一次性精神症群	6	139	WHO の製表リストに合わせて、名称修正
			35	双極症又は関連症群	6	140	分類軸の変化
b-0504	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	1,721	36	抑うつ症群	6	141	分類軸の変化
b-0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,243					
			37	不安又は恐怖関連症群	6	142	概ね b-0505 に類似。
b-0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	88	38	物質使用症群	6	145-149	
b-0501	血管性及び詳細不明の認知症	211	39	原因は不明又は特定不能の認知症	6	6D8Z	死因分類表と同様 ICD の Coding ルール（原因疾患にコード）に準拠
b-0507	その他の精神及び行動の障害	805	40	その他の精神、行動又は神経発達の疾患群	6	143-144,153-154	「その他の」の位置移動
			41	睡眠・覚醒障害群	7		ICD-11 新章
		1,160	42	不眠障害群	7	155	100 万人以上、総患者数は c-0610
			43	その他の睡眠・覚醒障害群	7	156-157	
b-0600	神経系の疾患	3,667	44	神経系の疾患	8		
b-0601	パーキンソン病	289	45	パーキンソン病	8	158	「認知症」の一部がこちらへ移行
b-0602	アルツハイマー病	794	46	アルツハイマー病	8	159	「認知症」の一部がこちらへ移行
			47	レビー小体病	8	160	「認知症」の一部がこちらへ移行
b-0603	てんかん	420	48	てんかん又は発作	8	162	
b-0905	脳内出血	62	49	脳内出血	8	166*、8B25.1	ICD-10 からの継続性を考慮
b-0904	くも膜下出血	201	50	くも膜下出血	8	165*、8B25.2	ICD-10 からの継続性を考慮

b-0906	脳梗塞	1,199	51	脳虚血	8	167-168、 8B25.0	
b-0907	脳動脈硬化(症)	2					少数
b-0908	その他の脳血管疾患	283	52	その他の脳血管疾患	8	166*,169,171*	
b-0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	84	53	脳性麻痺	8	170	WHOの製表リストに合わせて名称変更(「又はその他の麻痺性症候群」を削除)
b-0605	自律神経系の障害	31	54	自律神経系の障害	8	171*(8D8)	
b-0606	その他の神経系の疾患	2,066	55	その他の神経系の疾患	8	161,163- 164,171*	
b-0700	眼及び付属器の疾患	7,974	56	視覚系の疾患	9		
b-0701	結膜炎	570	57	結膜炎	9	173	
b-0702	白内障	1,714	58	白内障	9	175	
		2,349	59	緑内障又は緑内障疑い	9	177	100万人以上、c-0708の総患者数
b-0703	屈折及び調節の障害	812	60	屈折又は調節の障害	9	179	
b-0704	その他の眼及び付属器の疾患	2,529	61	その他の視覚系の疾患	9	172,174,176,1 78,180-182	
b-0800	耳及び乳様突起の疾患	964	62	耳又は乳様突起の疾患	10		
b-0801	外耳炎	159	63	外耳炎	10	AA1, AA3	
b-0802	その他の外耳疾患	28					その他のまとめ
b-0803	中耳炎	253	64	中耳炎	10	AA8-AB0	
b-0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	77					その他のまとめ
b-0805	メニエール病	112	65	メニエール病	10	AB31.0	
b-0806	その他の内耳疾患	67					その他のまとめ
b-0807	その他の耳疾患	440	66	その他の耳又は乳様突起の疾患	10		
b-0900	循環器系の疾患	20,411	67	循環器系の疾患	11		
b-0901	高血圧性疾患	15,111	68	高血圧性疾患	11	187-188	
b-0911	低血圧(症)	30	69	低血圧	11	203*(BA2)	
b-0902	虚血性心疾患	1,282	70	虚血性心疾患	11	189-190	
		877	71	不整脈	11	196,197*	50万人以上であり追加、c-0914の総患者数
		550	72	心不全	11	193-194	50万人以上であり追加、c-0915の総患者数
b-0903	その他の心疾患	1,773	73	その他の心疾患	11	191,195,197*	ICD-11製表リスト定義によりBB01-BB03(肺性心、肺循環の疾患等)を含む
b-0909	動脈硬化(症)	130	74	慢性動脈閉塞性疾患	11	200*(BD4)	疾患概念の変化により、ICD-10における粥状硬化症(I70)がブロックBD4「慢性動脈閉塞性疾患」に包含
b-0912	その他の循環器系の疾患	334	75	その他の循環器系の疾患	11	192,198,200*, 201-202,203*	
b-1000	呼吸器系の疾患	5,666	76	呼吸器系の疾患	12		
		848	77	急性上気道炎	12	204*(CA00- CA07)	細分類において詳細不明・部位不明が多くを占める
b-1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]←感冒→	90					
b-1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	215					
b-1003	その他の急性上気道感染症	542					

b-1006	アレルギー性鼻炎	1,666	78	アレルギー性鼻炎	12	204*(CA08.0)	
b-1007	慢性副鼻腔炎	289	79	慢性副鼻腔炎	12	204*(CA0A)	
b-1009	慢性閉塞性肺疾患	362	80	慢性閉塞性肺疾患	12	205	
b-1010	喘息	1,796	81	喘息	12	206(CA23)	
b-1004	肺炎	62	82	肺炎	12	207(CA40)	
b-1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	248	83	急性気管支炎又は急性細気管支炎	12	212*(CA41-CA42)	及び→又は
b-1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	17					少数かつ ICD-11 では明示されていない
b-1011	その他の呼吸器系の疾患	373	84	その他の呼吸器系の疾患	12		
b-1100	消化器系の疾患	17,619	85	消化器系の疾患	13		
b-1101	う蝕	2,890	86	う蝕	13	213	
b-1102	歯肉炎及び歯周疾患	8,604	87	歯肉疾患又は歯周疾患	13	215*(DA0B-DA0D)	疾患概念の変化により、歯肉炎は歯肉疾患に包含
b-1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	1,896	88	その他の口腔顔面複合体の疾患又は障害	13	214-215*(DA0B-DA0D 除く)	
		545	89	胃食道逆流症	13	216*(DA22)	50万人以上であり追加、総患者数は K210+K219
b-1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	235	90	胃又は十二指腸の潰瘍	13	217	
b-1105	胃炎及び十二指腸炎	1,054		胃炎又は十二指腸炎	13	218*(DA42 DA51)	
b-1106	痔核	140	91				裂肛、痔瘻を含まない理由が不明
		155	92	痔	13	232,233*(DB5)	裂肛、痔瘻を含む
b-1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	108	93	肝線維症又は肝硬変	13	222*(DB93)	
b-1107	アルコール性肝疾患	55	94	アルコール性肝疾患	13	223	
b-1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	121	95	慢性肝炎、他に分類されないもの	13	224*(DB97.2)	中分類定義
b-1110	その他の肝疾患	226	96	その他の肝疾患	13	220-221,222*,224*	
b-1111	胆石症及び胆のう炎	113	97	胆石症又は胆嚢炎	13	225 226	
b-1112	膵疾患	102	98	膵臓の疾患	13	233*(DC3)	
b-1113	その他の消化器系の疾患	2,298	99	その他の消化器系の疾患	13	和訳リスト参照	
b-1200	皮膚及び皮下組織の疾患	5,519	100	皮膚の疾患	14		
b-1201	皮膚及び皮下組織の感染症	155	101	感染症又は寄生虫症に起因する特定の皮膚障害	14	234	
b-1202	皮膚炎及び湿疹	2,658	102	皮膚炎又は湿疹	14	235	及び→又は
b-1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	2,715	103	その他の皮膚の疾患	14	236-239	
b-1300	筋骨格系及び結合組織の疾患	9,945	104	筋骨格系又は結合組織の疾患	15		
b-1302	関節症	2,077	105	変形性関節症	15	240	変形性股/膝関節症を含む
b-1301	炎症性多発性関節障害	1,146	106	炎症性関節症	15	241	関節リウマチ、痛風含む
b-1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	2,355	107	脊椎の障害	15	245*(FA72)	疾患の概念の変化により、包含項目が変化。
b-1304	椎間板障害	622	108	椎間板変性	15	245*(FA80)	名称の変更に合わせた。
b-1305	頸腕症候群	126					ICD-11 に対応コードなし

b-1306	腰痛症及び坐骨神経痛	435					ICD-11において21章へ移動
b-1307	その他の脊柱障害	296	109	その他の脊椎に関連する状態		245*(FA72, FA80 除く)	ICD-11 に対応コードなし
b-1308	肩の傷害<損傷>	569	110	肩の病変	15	246*(FB53)	
b-1309	骨の密度及び構造の障害	1,380	111	低骨量障害	15	247	
b-1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	955	112	その他の筋骨格系又は結合組織の疾患	15	242-244,245*,246*,248-249	及び→又は
b-1400	腎尿路生殖器系の疾患	4,061	113	腎尿路生殖器系の疾患	16		
b-1407	月経障害及び閉経周辺期障害	644	114	異常子宮又は腔出血	16	254	
			115	閉経期の又は特定の明示された周閉経期の障害	16	255	
b-1405	前立腺肥大(症)	1,080	116	前立腺肥大症	16	258	
b-1406	その他の男性生殖器の疾患	64	117	その他の男性生殖器の疾患	16	259-262,274*	
b-1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	738	118	乳房又はその他の女性生殖器の疾患又は女性骨盤底の機能不全	16	250-253,256-257,263,273,274*	及び→又は
b-1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	202	119	糸球体疾患又は腎尿細管間質性疾患	16	264-266	及び →又は
b-1402	腎不全	642	120	腎不全	16	267-268	
b-1403	尿路結石症	120	121	尿路結石症	16	269	
b-1404	その他の腎尿路系の疾患	629	122	その他の腎尿路生殖器系の疾患	16	270-272,274*	
			123	性の健康に関連する状態群	17	275	ICD-11 新章
b-1500	妊娠、分娩及び産じょく	150	124	妊娠、分娩又は産褥	18		
b-1501	流産	10	125	流産	18	276-279	ICD10の継続性によりJA01~JA0Z(異所性妊娠、胎状奇胎、その他不明の流産等)も流産に追加
b-1502	妊娠高血圧症候群	4	126	妊娠、分娩又は産褥期の浮腫、タンパク尿又は高血圧症	18	280-281,294*	ICD-10 中分類の ICD-10 コード (O10-O16) に該当するもの
b-1503	単胎自然分娩	27	127	単胎自然分娩	18	289	
b-1504	その他の妊娠、分娩及び産じょく	109	128	その他の妊娠、分娩又は産褥	18	282-288,290-293,294*	
b-1600	周産期に発生した病態	68	129	周産期に発生した特定の状態	19		
b-1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	43	130	在胎期間又は胎児発育に関連する新生児の障害	19	295-297,303*	
b-1602	その他の周産期に発生した病態	24	131	その他の周産期に発生した特定の状態	19	298-302,303*	「その他の周産期に発生した特定の状態」と名称変更
b-1700	先天奇形、変形及び染色体異常	280	132	発生異常	20		
b-1701	心臓の先天奇形	49	133	心臓又は大血管の構造上の発生異常	20	306	
b-1702	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	231	134	その他の発生異常	20	304-305,307-313	名称の変更に合わせて修正。 及び→又は
b-1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	940	135	症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの	21		
b-1306	腰痛症及び坐骨神経痛	435	136	腰痛又は坐骨神経痛	21	317*(ME84.2-ME84.3)	ICD-10 の 15 章より移動

			137	その他の症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの	21	314-317* (ME84.2- ME84.3 除く)	
b-1900	損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,061	138	損傷、中毒又は特定のその他の外因の影響	22		
b-1901	骨折	995	139	骨折	22	318-322	
b-1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	65	140	頭蓋内損傷又は内臓の損傷	22	325-326	及び→又は
b-1903	熱傷及び腐食	20	141	熱傷	22	330	
b-1904	中毒	8					少数
b-1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	970	142	その他の損傷、中毒又は特定のその他の外因の影響	22	323-324,327- 329,331-334	
b-2100	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9,151	143	健康状態に影響を及ぼす要因又は保健サービスの利用の要因	24		
b-2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	1,338	144	健診又は検査目的の保健医療サービスの利用	24	335	
b-2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	337	145	生殖に関連する理由のための保健医療サービス	24	336-339	
b-2104	歯の補てつ	2,397	146	歯科補綴装置	24	QB31.3	
b-2102	予防接種	2,670	147	予防接種	24	QC00-QC03	
b-2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者			（削除してまとめる）	24		
b-2106	その他の理由による保健サービスの利用者	2,659	148	その他すべての健康状態に影響を及ぼす要因又は保健医療サービスの利用	24	340-346	
b-2200	特殊目的用コード		149	特殊目的用コード	25		
b-2210	重症急性呼吸器症候群 [SARS]-						ICD-11MMS より削除
		19	150	COVID-19	25	54-55	
b-2220	その他の特殊目的用コード		151	その他の特殊目的用コード	25	347 含む	新たな疾患及び緊急使用のための分類

注: ICD-10 中分類と新分類は概ね対応するものを同じ行に並べているが、「その他の～」は含まれる範囲が異なっている。太字は章。*は WHO Morbidity Tabulation List の分類のすべてではないもの。